

一般社団法人交通環境整備ネットワーク

創立社員総会 次 第

1. 期 日 平成21年5月15日（金） 18時～

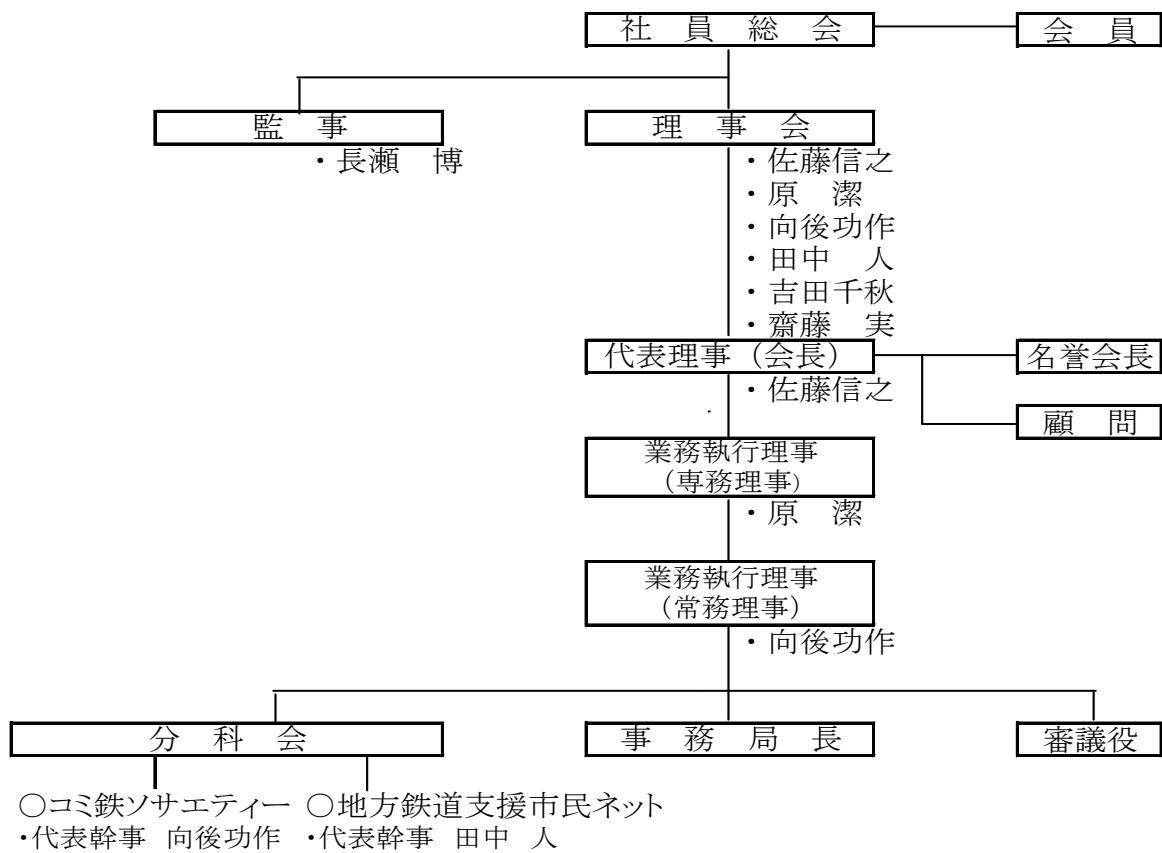
2. 場 所 財団法人東京都中小企業振興公社 第4会議室
東京都千代田区神田佐久間町1-9

3. 設立社員総会 18時～19時

- (1) 会長あいさつ
- (2) ご来賓祝辞
- (3) 事業計画の承認
- (4) 予算の承認
- (5) 閉会

(参考) 一般社団法人 交通環境整備ネットワーク組織図

平成21年5月15日現在



一般社団法人交通環境整備ネットワーク 2009年度事業計画

1. 基本方針

政府は、京都議定書に基づき、地球温暖化物質のCO₂換算で、2012年までに基準年(1990年)の6%削減を目指している。国内では、地球温暖化物質の排出量の大きな比率が運輸事業に由来することから、モーダルシフトにより、地球温暖化物質の排出量の少ない交通機関への需要のシフトを図っている。自動車の燃費の向上とハイブリッド車などエコ車両の開発により、徐々にCO₂の排出量は減少しているものの、京都議定書の目標を達成することは難しい状況である。

こうした中で地方のローカル鉄道は、利用率が低いために必ずしも環境に優しくないという主張もあるが、旅客の増加に対して追加的な環境負荷の増加がなく、自家用車の利用者を鉄道利用に転換して利用効率を引き上げることが地球温暖化物質の削減につながることになる。

また、地方部における少子化の進行は、地域公共交通の経営環境の厳しさを増し、一方で人口の高齢化の進行は、公共交通に依存する、いわゆる交通弱者人口の増加を意味しており、次世代の住民のモビリティを確保することが今の我々の世代に課せられた責任となっている。

そのために、いわゆる交通活性化法に基づく法定協議会による協議を通じて、鉄道維持のための、公共交通事業者、行政、住民・利用者間での合意形成を行う仕組みが出来上がった。しかし、必ずしも、公共交通事業者、行政、住民・利用者の三者間で、課題に対して共通認識を持ち得ることが出来る訳ではなく、場合によっては対立する場面も想定される。

都市部でも、さまざまな政策課題が登場して、公共主体の関わりの必要性が増大している。大都市圏では、新たな交通需要への対応や渋滞踏み切りの解消といった、依然として交通インフラの整備が不十分であるケースも多く、そのような場合には、日常的に事業主体と地域の住民や利用者との間での意思疎通を図り、交通インフラ整備に対する共通の認識の基盤を持つことが重要である。

当法人は、このような、公共交通に関わる行政、公共交通事業者、住民との間のゆるやかな結合体として、それぞれの意思疎通の増進に寄与して参りたいと考えている。そのために、専門の知識を有する有識者や国、地方公共団体等との連携を深め、相互に情報を共有できるための諸活動を進めていく。

2. 交通環境の調査研究

鉄道を中心とした地域公共交通体系を実現するためには、従来の行政による財政支援だけでは十分とは言えない。市民が鉄道存続の意義を認識して、積極的に関わってもらうことが必要である。同時に、鉄道を存続する上で生じる責任についても、住民に負担してもらう必要がある。そこで、当法人では、市民参加の現状に関する情報を収集し、鉄道存続における市民参加のあるべき姿について調査研究を実施していく。

また、鉄道利用促進のための二次系交通機関のあり方について、鉄道と二次交通機関としてのバス、タクシーとの連携状況について調査を行っていく。本年度は、現状に関する情報を収集する。

3. 交通環境の整備及びその活動に対する支援協力

これまで任意団体の「コミ鉄ソサエティ」及び「地方鉄道支援勝手連」が実施してきた「セミナートレイン」と「鉄道茶論」のイベントを引き続き実施する。

このセミナートレインは、大学生たちに交通問題の現場に触れてもらおうという発想ではじめたイベントで、コンセプトは鉄道の車両や施設を利用して行う「大学のセミナー」というイメージで実施している。

鉄道茶論は、存廃問題が浮上している地方ローカル鉄道の支援イベントとして実施してきており、鉄道の存在価値を広く地域社会に認識してもらうため、鉄道が存在する地域の歴史や文化といった、ひろく地域社会を象徴するテーマに注目しつつ、鉄道の存在意義を考える場としての性格を有している。

セミナートレインについて今年度は、千葉都市モノレールの施設を利用して、6月27日(土)に第3回セミナートレインを実施する。実施にあたっては公益事業学会及び千葉都市モノレール株式会社の後援を頂戴している。従来の亜細亜大学の関連講座の受講生を中心についていたのを改め、広く一般の研究者、学生を対象に含めて、イベントの内容を拡充する。第3回セミナートレインでは、千葉市内の公共交通の成り立ちと千葉モノレールの整備された時代的な背景を紹介した上で、従来の上下分離の概念を超えて完全上下分離を実現した千葉都市モノレールの再建スキームを紹介する。また、国土交通省鉄道局の担当者による近年の鉄道サービスに関する新展開に関する解説を予定している。

このイベントでは、地域の足を担う役割を訴求する結果、完全上下分離により地方自治体が応分の負担する決断した点に注目する。現在、路線延伸計画を持つが、今後、住民への情報開示による円滑な意思疎通が求められる。軌道系公共事業に対する軌道事業者、行政、住民の間の関わり方について考える契機となればと考えている。

鉄道茶論について今年度は、9月5日(土)に、津軽鉄道沿線の五所川原市金木町の斜陽館において、第2回鉄道茶論を実施する。鉄道が地域文化・歴史、自然、観光資源のメッセンジャーとしての役割を担うと考え、今年、太宰治生誕100周年にあたることから地元でもさまざまな企画が提案されており、これらと連携してイベントを実施していく。

4. 交通環境にかかる提言、出版並びに情報発信

当法人は、インターネットサイト <http://www.ecotran.org> を開設し、会の運営に関して告知するほか、地域交通に関する情報を提供している。今後、<http://www.raillinks.jp> の活用、新規ドメインの取得により、公共交通だけでなく観光や商業活動などにおける地域の活性化に関するテーマについても、情報提供を行っていきたい。

また、年に2回、会報を発行する。会の運営に関する情報に加えて、メンバー各社の経営や個人の研究に資する生の情報提供する計画である。

5. 当法人の発展のために

当法人は、公益的事業に活動を限定するという方針を持ち、収益事業は実施しない。円滑な活動を行うための原資は会費と基金あるいは寄付金であり、そのためにも広く会員を募ることとしたい。会員諸氏においてもそれぞれの立場で会員の拡充に努めるものとする。

また、当法人の目標に沿って、グッズの開発・販売、イベントの企画・実施、インターネット・コンテンツの開発などの事業組織とも連携を図り、会の運営の財政的な基礎となる基金の拡充や寄付の協力を求めて参りたい。

一般社団法人交通環境整備ネットワーク
2009年度 収支予算書

単位：円

項目	予算額	備 考
1. 事業活動収支		
(1) 事業活動収入		
①会費収入	150,000	個人会員50人入会金・会費
②その他	10,000	会報頒布代
事業活動収入計	160,000	
(2) 事業活動支出		事業活動支出明細参照
①事業費支出	100,000	
②管理費支出	275,000	
事業活動支出計	375,000	
事業活動収支差額	-215,000	
2. 投資活動収支		
(1) 投資活動収入	0	
(2) 投資活動支出	0	
投資活動収支差額	0	
3. 財務活動収支		
(1) 財務活動収入	500,000	基金募集
(2) 財務活動支出		
財務活動収支差額	500,000	
4. 予備費支出	50,000	
当期収支差額	235,000	
前期繰越収支差額		
次期繰越収支差額	235,000	

事業活動支出明細

単位：円

1. 事業費	予算	備考
(1) セミナートレインの開催	10,000	
(2) 鉄道茶論の開催	30,000	
(3) 情報誌の作成	60,000	単価 500×60 部×2回
事業費計	100,000	

2. 管理費	予算	備考
(1) 会議費	25,000	総会費
(2) 交際費		
(3) 旅費		
(4) 通信運搬費	5,000	電話、郵便、情報通信費
(5) 什器備品費		
(6) 印刷製本費	10,000	紙、インク、コピー代
(7) 委託費		
(8) 雑費	5,000	振込み手数料ほか
(9) 設立関係費用	130,000	定款認証、登記、謄本等
(10) 租税公課	100,000	法人税等 (市民税均等割 50000 円、県民税均等割 20000 円ほか)
管理費計	275,000	

事業活動費計	375,000
--------	---------

入会金・会費の納入のお願い

入会金 1,000 円及び 2009 年度分会費 2,000 円の合計 3,000 円を、次の口座まで納入をお願いいたします。

郵便振替

口座番号 00170-6-546398

口座名称(漢字) 一般社団法人 交通環境整備ネットワーク

口座名称(カナ) シヤ コウツウカンキョウセイビネットワーク